

花むつみ通信

はな か 花の香

2011年（平成23年）12月1日 第1号（創刊号）



社会福祉法人 一真会

特別養護老人ホーム 花むつみ

小規模多機能型居宅介護 花むつみ



～タイトル「花の香」について～

花むつみをご利用の

佐藤榮吉様による書です

理事長挨拶

社会福祉法人一真会 理事長 佐々木幸雄



このたび、社会福祉法人一真会「花むつみ」から第1回目の広報誌が創刊されます事は、大変喜ばしく、これもひとえに関係者皆様の協力のおかげと感謝申し上げます。

当法人は、昨年5月に法人認可され今年の3月より「花むつみ」として、ここ十文字町睦合地区にて地域の方をはじめ関係者等のお力をかり、事業を開始させて頂いておるところです。事業内容については別に詳しく掲載しておりますので割愛させて頂きます。

さて、小生は長年の仕事を通じて、各々の事業所をいくつか建設して参りましたが、今回この花むつみ建設時程、ハプニングが重なったことは未だかつてありませんでした。まず第一に、昭和48年に次ぐ豪雪(当時の横手市の累積降雪量1164cm。ちなみに小生が日記に記録しておる今年の累積降雪量は914cmでした。)竣工が今年の1月であり、ちょうど1月の豪雪に会い、一時は建設が遅れるのではないかとという心配もありましたが、建設業者の懸命な努力により無事に事故もなく竣工できました。次いで第2は3月11日のあの忘れられない東日本大震災がありました。当法人においての甚大な被害はなかったものの、震度5強という大地震がこれ程までに恐ろしいものかと痛感したこと、また約3日間の停電が今までの生活のあり方を考えさせられました。他県では多くの方が地震、津波等の被害にあわれ、今もまだ、被災生活を強いられており、皆様方に心よりお見舞い申し上げますと共に、今後の早期の復興を願っております。

その他にも2、3点のハプニング等があり、小生にとっては忘れられない一年となりました。しかしながら、職員の皆さんを初めとして、地域の方その他周りの方々の多くの善意に助けられ、支えられ「花むつみ」が動き出したのは幸運の極みであります。

法人・個人にとっても、その長い人生に於いては「まさか?」と思う事が多々あります。その時に、臨んで人は驚き、うろたえ悲観に暮れて絶望の深淵を覗き見るが「覆水盆にかえらず」。起きてしまった事はもうどうにもならないのです。しかし、その時に「どうしよう?」では無く「どうすれば...」の対応が必要だと小生は感じております。出来ると思つて実行すればできる事でも、出来ないと思つて決めてチャレンジしなれば全てはそこで終わってしまう。私たちに必要なものは「やりたい自分」へのチャレンジ精神と、その目標に向かって少しづつ登る努力のプロセスに喜びを感じる事だと思えます。出来る出来ないは自分が決めるものです。具体的には、どういう能力が欲しいのか、どういう資格を取りたいのか、どういう職業に就きたいのか、どんな生活をしたのか等を、どう実現するかという事になります。重要なのは私たちが「自分自身の思考」に左右されるという事です。人間は思考の生き物。人生はその人の思考以上でも以下でも無いという言葉もある様に、どんな場合でも、自らに自信を持つことが、登ることに繋がっていきます。ネガティブなマイナス思考は、このチャンスすら自ら放棄してしまふ事になります。最後になりますが、小生が結婚式の挨拶で何時も言う言葉があります。

「平均的な日本人は一生の間で、約3年半を食事に費やし、東京から函館まで髪を伸ばし、2,000人の名を覚え、そして2週間をキズに費やす。」

皆さんは他の時間を何にどう使いますか? 良い人生を送りください。今後とも、「花むつみ」をどうぞよろしくお願い申し上げます。



私たちは、みなさまと互いに寄り添い
やすらぎのある環境の中で、一人ひとりの意思を尊重し、
生き活きとした暮らしを支えています

私たちの思いと理念

花むつみが開所になる前にスタッフ全員が、研修中に思いを出し合い形となったものです。その場では、これから花むつみでの生活に向けてのお住まいの方、ご利用者の方のご要望にスタッフが寄り添っていくにはどうしたらよいかを考えました。スタッフの初めての共同作業でもあり、集中、協力、想いをよせ合うことができ、絆の深まりを感じた瞬間でした。その活動の中で、スタッフ同士が想う心をよせ合うことで、どんな絆が深まって行く事を実感しました。スタッフ全員の想いを一つの文章にまとめることは、思いやりの心、人との関わりの大切さなど、とても素晴らしい意見がたくさんあり、難しいことでしたが、すべての想いがつながる一文字一文字を形にする時間が続きました。

漢字には、それぞれ意味があります。



“慈” ～きずな
“愛” ～思いやり
“心” ～つながり
“睦” ～ふれあい

特に地域密着型である花むつみは、“睦”という字を地名の睦合にあやかり、地域との交流、ふれあいを大切にしている思いが込められたものです。また、生きがいやゆとりを持ち、安らぎのある環境の中で、一人おひとりの意思を尊重し、その方らしい充実した生活を送れるように寄り添って絆を深めて行くことを意味しています。この理念は、スタッフ全員の想い、願い、希望が込められております。

これからも花むつみは、お住まいの方、ご利用者の方、ご家族様、地域の皆様とともに一歩一歩進んでいきます。その中で私たちが進むべき方向や日々行うことに迷ったり困ったりしたとき立返る場所はこの理念を立ち上げた時の絆の深まりを感じた「あの瞬間」であり、理念を振り返り心に思うことで初心を忘れず日々の『生活』を大切にしていきたいと思えます。

由来

花むつみの名称の由来は、この地域の「睦合」から、むつみ合う、お互いになれる親み合う、仲良くし合うという言葉にあやかっただけです。

花むつみの花は、この地域が花の栽培が盛んであることから付けました。

名前のとおり沢山の花に囲まれるようにと、施設内に「桜」の木が植樹されています。

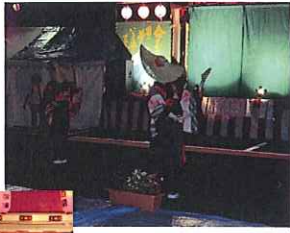
花むつみは、地域密着型施設で、「特別養護老人ホーム」と「通い」「訪問」「泊まり」のサービスを基本とし、それらを組み合わせご利用いただける「小規模多機能型居宅介護」の複合施設です。

地域との交流、つながりを持ちながら、地域福祉に貢献して参ります。

周りは田園風景が広がり、鳥海山も望めます。また、保育所と小学校に隣接し子供たちの声が時折聞こえる心和む立地となっております。

花むつみ祭

花むつみ祭のオープニングを飾ったのは、湯沢市の豊稷太鼓の皆さんによる勇壮なパチさばきからでした。理事長挨拶に続き、藤波舞踊一座の皆さんによる華麗な舞台が繰り広げられました。また、国指定重要無形民俗文化財の西馬音内盆踊り愛好会の皆さんにより披露され、幻想的な踊りに会場が包まれました。ご提供による花火も打ち上げられました。午後七時、フィナーレとなるスターマインが夜空に広がり、歓声と大きな拍手がわきおこりました。



屋台の様子で、金魚すくいの子供たちに大人気、綿あめは終了時間までお客さんが続き、イカ焼き、焼き鳥、焼きソバは食券が売り切れるという大盛況ぶり。高校生のみなさんのお手伝いもあり、私達の予想を上回る成果が出ました。足湯の方は、いらしてくださいました皆さんに喜んでいただけました。



炭酸泉の効果も実感してもらえ、「毎日入りたい」
「温まる。これだけいいな」といったお声を頂きました。



屋台の焼きそば、おもちゃを召し上がりながら、普段なかなか見る機会のない藤波劇団様の舞踊や、豊稷太鼓、西馬音内盆踊りに嬉しそうな笑顔が見られたのがとても印象的です。

打上げ花火に涙を浮かべるご利用者の方、お住まいの方もいらっしやいました。

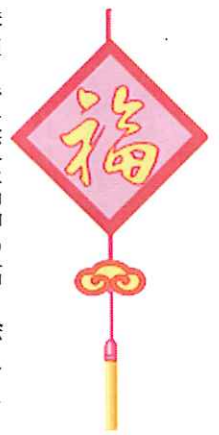


花むつみ祭に参加してくださいました皆様と楽しいひとときを過ごすことができました事を大変嬉しく思います。

花通り

施設内の会議室と廊下を利用して写真展、作品展を行い、写真展ではユニットカラーの模造紙に写真を貼り、飾り付けや寄せるコメントを記載しました。

花通りでは、皆様の日常の笑顔を向日葵で表現し、スタッフとお住まいの方々の手を繋ぎ、輪を作り、皆で一つの花が出来上がりました。何ができるのかな？と楽しみで手形やちぎり絵を作られ、心が一つになる、そんな作品となりました。



森通りでは「七福神の貼り絵」をスタッフと一緒に作りました。お住まいの方とスタッフが一緒に共同作業できるものは？と考え、また皆様の所へ「福」がやってくるようにと作成に至りました。「ここは何色だ？」と楽しく会話をし、協力して出来上がった作品です。

森通り



光通り

光通りでは、昔和装の先生をやっておられた方が、スタッフで子供の浴衣を作りたいので教えて欲しいと、一緒に作られた作品が展示されました。器用な手つきで縫いながら教えられており、出来上がりに時間は掛かりましたが、スタッフも「このような経験はなかなか出来ない、よかったです！」と話しておりました。他にもテッシュケースや手提げ袋等も展示され、テッシュケースはスタッフも一緒に作りました。リビングにて大活躍しています。



空通りでは、現在95歳になられる女性のご利用者様が20年程前まで作っていた「押し絵」が展示されました。花むつみ祭に出品した一点が展覧会で賞を頂いたそうです。



写真・作品展をご覧になられたご家族様や地域の皆様からは次のようなお言葉を頂きました。「どの写真を見ても、その方に寄り添って時間を積み重ねて来られた事がよく分かります」

空通り

花むつみでは 炭酸泉を使用しています



花むつみでは、今話題の炭酸泉を使用しています。炭酸泉とは、炭酸ガス(二酸化炭素)が溶けこんだお湯のことで別名『ラムネのお風呂』とも言われています。日本の温泉法ではお湯1Lに炭酸ガス0.25g以上(250PPM)溶け込んだものが炭酸泉と定義されており、その中でも1000PPM以上のものを高濃度炭酸泉といい、花むつみの炭酸泉はこれにあたります。導入のきっかけは、施設のプールとして天然温泉を運搬して、提供する予定でしたが、安定供給の難しさと、排水の許可を得る事が難しかった為断念(周囲が田んぼの為)。その後炭酸泉と出会い、導入に至りました。

効果・効能

- 入浴効果
冷え性・疲労回復・高血圧・肩こり・血行障害・外傷の改善・関節痛リウマチ・関節炎神経痛の症状の緩和。
- 飲用効果
慢性胃弱体質の改善・便秘の緩和・糖尿病改善・疲労回復。
- その他
炭酸ガスの細やかな気泡が肌を刺激し、美肌効果。抗菌作用もあり、カビや白癬菌に対して抗菌作用。厨房内における除菌効果など、様々な効果・効能が期待されるようです。

花むつみでは、入浴・足湯・厨房内で炭酸泉を使用し、入浴時には体調を考慮しながら炭酸泉を使用しています。お住まいの方・ご利用者様からはぬるま湯でも温まる等の声もあり、また、職員の入浴支援時や厨房作業での手荒れの軽減があり、好評を得ております。その他に、理由は明確ではありませんが、炭酸泉で炊いたご飯が大変美味しいと好評です。現在、この炭酸泉の研究も盛んに行われており、花むつみでも秋田大学大学院医学研究科の杉山教授を先頭とした研究に積極的に協力しているところでもあります。

花むつみの行事

花むつみでは次のような行事を行いました。

五月 睦合小学校運動会見学

六月一四日 植樹の集い(保育所園児と)

睦合保育所運動会見学



七月 さくらんぼ狩り・あやめ祭り見学

七月七日 七夕かき氷祭り



八月一四日 今泉祇園囃子様来苑

八月三〇日 津久美会様 来苑

九月一〇日 十文字町敬老会参加

九月一七日 睦合保育所運動会見学

編集後記

冬の到来 日を追うごとに寒さが増し、花むつみの窓からも稲刈りが終わった田んぼに白鳥が見られる季節になりました。ご家族様や地域の皆様に支えられ八か月目に入りました。このたび、第一回目の広報誌を創刊させて頂いていただくことができましたことに深くお礼を申し上げます。花むつみは、初めての冬を越えることとなりますが、お住まいの方、ご利用の方と共に過ごす日々は心にぽつと灯がともったように暖かく、冬の寒さなど吹き飛ばしてしまえそうです。花むつみに関わるすべての皆様と共に元気に生活することができていることに感謝し、今後も成長してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

つぶやき



●寒くなる ● 用務技師 織田陽介

冬が来ます。私は一番嫌な季節が来ます。雪寄せ、車の運転、寒くて眠れないとかいえばキリがないのですが・・・でも秋田は四季を感じられる素晴らしい場所なのです。「花むつみ」の近くの田んぼにも白鳥が飛来しています。ハクチョン(白鳥)と風邪をひかずに気を付けましょう。